



## 【指導事例 1】

### 1 主 題 「広い心で」〔相互理解、寛容〕

### 2 ねらい

広い心で自分と異なる意見や立場を尊重し、相手の立場に立って考える態度を育てる。

### 3 教材について（教材の生かし方や人物像）

本教材は、ロシアとの和平に尽力した高田屋嘉兵衛の功績に触れることを通して、自分と異なる意見や立場を尊重し、相手の立場に立って考える態度を育てることをねらいとしています。  
前半では、「北洋漁業の先駆者」と呼ばれた商人、高田屋嘉兵衛が、「ゴローニン事件」で自らが人質となって、ロシアとの和平のために努力したことが示されています。  
後半では、「ゴローニン事件」を解決するために、リコルドと日夜、協議を重ね、次第にお互いを尊重するようになったことに触れています。  
指導に当たっては、ロシアと交渉するために、自らロシア語を学ぶ高田屋嘉兵衛の努力と、その熱意に引き付けられていくリコルドが互いの個性や立場を尊重していくことを理解することを通して、寛容の心をもって自らを高めることの大切さについて考えを深めていくことが重要です。

### 4 展開例ー①「相互理解・寛容について、釈明書と謝罪状を持って日本に帰国するときの嘉兵衛の思いを通して、謙虚な心もち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重することの大切さについて考える展開」

|    | ●学習活動<br>○主な発問 ◎中心的な発問 ・予想される子どもの反応   | ・指導上の留意点（■評価）  |
|----|---|--|
| 導入 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学級会や係活動での話し合いを想起する。</li> <li>○ みなさんは、学級会や係活動で自分の考えと友達の考えが違い、結論が出しにくかったことはありませんか。また、そのときどうしましたか。<br/>・自分の考えを譲ることができなかった。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活から、相互理解、寛容について自分の経験を想起し、ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。</li> </ul>   |
| 展開 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 教材「広い心で」を読み、話し合う。</li> <li>○ どうして嘉兵衛は、ロシア語を習おうとしたのでしょうか。<br/>・リコルドと話がしたかったから。<br/>・相手の気持ちを知るためには、相手の国の言葉を理解した方がよいから。</li> <li>◎ 釈明書と謝罪状を持って日本に帰国するときの嘉兵衛はどのようなことを考えていたと思いますか。また、あなたはどのように考えたのですか。<br/>・色々な誤解はあったが、真剣に話し合えば気持ちは伝わるんだ。<br/>・目的を達成するためには、自分のことばかり主張するのではなく、相手の立場で考えることが大切だと思うから。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロシア語を習得した嘉兵衛とリコルドが対話を通して信頼関係で結ばれたことについて考えることができるようにする。</li> <li>・役割演技を通して、教師がリコルド役になって、嘉兵衛役の児童に、最後の別れの言葉を投げかける。</li> <li>・自分の意見を伝えたり、友達の意見を聞き、受け止めたりするよう促す。</li> </ul> |
|    | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「広い心」で接することの大切さや難しさについて話し合う。</li> <li>○ 自分の意見を伝えたり、相手を受け入れたりするなど、お互いを理解するために、あなたはどのようなことをしてみたいですか。<br/>・学級会の話し合い活動のとき、自分の考えを主張するだけでなく、相手の意見をよく聞いて考えをまとめたい。<br/>・自分にとって都合が悪いことがあっても、すぐに怒らないで理由や考えを聞いてから話し合いたい。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の経験を振り返りながら、ワークシートに自分の考えをまとめる時間を設ける。</li> <li>■ 謙虚に広い心で自分と異なる意見や立場を尊重することについて、自分との関わりで考えている。</li> </ul>  |
| 終末 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「どうすればもっと広い心をもてるのだろうか」（「私たちの道徳」P81）を読む。<br/>※相互理解、寛容に関わるこれまでの自分の行動や考え方について振り返り、これまでの自分と学習後の変容をワークシートに記入する。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの立場を尊重する態度が育まれるようにする。</li> </ul>   |

## 【指導事例 2】

### 1 主 題 「広い心で」〔相互理解、寛容〕

### 2 ねらい

広い心で自分と異なる意見や立場を尊重し、相手の立場に立って考える態度を育てる。

### 3 展開例—②「相互理解・寛容について、自分の考えを伝えるために努力した高田屋嘉兵衛の思いを通して、友達との関わり方について考える展開」

### 4 主な学習活動

(1) 高田屋嘉兵衛とリコルドの間に信頼関係が芽生えてきたとき、二人はどのような思いをもっていたのでしょうか。

- ・ロシア語を自分から学んで、伝えようとするなんて、嘉兵衛は本気で事件を解決しようとしているんだ。
- ・リコルドは怒っていると思ったが、私の話をしっかりと理解してくれようとしている。日本とロシアの和平のためにも頑張らなくては。
- ・自分の話や意見をしっかりと聞いてくれる人だな。

(2) 高田屋嘉兵衛は、どのような思いでリコルドと別れの言葉を交わしたのでしょうか。

- ・事件を解決するときには、お互いが主張だけしては何の進展もない。自分の考えを正直に伝えることが大切だ。
- ・リコルドは私の言うことを理解し、協力してくれた。人は対立するのではなくお互いに寄り添いながら生きていくことが大切だ。
- ・真剣に話し合えば気持ちは伝わる。自分のことばかり主張するのではなく、相手の立場で考えることが大切だ。

(3) 友達との関わり方について、大切にしたいことはどのようなことですか。

- ・友達のことを考えて接することが大切だと思う。そのためには、自分の思っていることを伝えて、信頼を深めていかなければならない。
- ・直接、友達に会って友達の思いも聞きながら、自分の思いを伝えていくことが大切だと思う。
- ・友達の話を理解しようと思いながら聞くことが大切だと思う。

#### □ 活用場面例（道徳科以外での活用事例）

##### ■ 社会科

我が国の位置と領土や鎖国などについての学習において、本教材を活用し、ロシアとの関係について理解を深めることを通して、信頼関係を築くことの大切さについて考えていくことができるようにする。

##### ■ 特別活動（学級活動）

学級や学校における生活づくりへの参画に関わる指導において、集団生活でリーダーシップを発揮したり、互いのよさや可能性を生かして役割分担をするために話し合ったりする活動の前に本教材を読み、広い心をもってお互いを受け入れることの大切さについて気付くことができるようにする。

##### ■ 日常生活

学校や家庭での生活において、本教材を活用した学習後に、相手の立場に立って接することができた経験や、自分の立場に立って接してもらった経験を振り返ることを通して、その時の自分の思いや、相手の表情、言葉、行動、態度についても振り返り、人との関わりはお互いを受け入れることによって、よりよい環境をつくり出すことにつながることを意識させることができるようにする。

##### ■ 家庭や地域との連携

道徳科の学習において、本教材を通して学んだことや考えたことを家族に伝えるよう児童に促すとともに、学級通信等において、終末の場面でワークシートの記入した内容を紹介したり、自分と異なる意見や立場を大切にできた経験について、家族と話し合うことを依頼したりすることにより、子どもたちが実践意欲を高めることができるようにする。